

## 1-10 哲学

### 研究・教育活動の概要と特色

本専攻分野においては、古代ギリシアに始まり、主として西欧世界に受け継がれて今日に至っている西洋哲学の営みを引継ぎ、さらに推進することが目指されている。そこで研究は、先人たちの思想的遺産を研究対象とする歴史的考察と、哲学の問題そのものと対峙する体系的考察とを車の両輪として進められる。スタッフの専門分野は古代中世哲学、近現代哲学、科学哲学、生命環境倫理学（科学技術倫理／臨床倫理学を含む）などであり、講義や研究演習を通して、原典（英語、独語、仏語、ギリシア語、ラテン語に互る）の厳密な読解と、それに基づく哲学的探究を実践すると共に、研究能力を身につける訓練を行っている。学生の指導にあたっては、自ら選んだテーマをめぐって、先人と対話すべく原典に向かい、また先行研究を押えた上で、自らの思索を展開することとくに留意している。なお、社会人コースの学生は、社会の現場において抱くようになった問題意識に基づくテーマを選ぶこともできるようにしている。

本専攻分野の特色は、第一に 1922 年（大正 11 年）創設以来の伝統ある学問活動の蓄積である。高橋里美をはじめとして、日本の哲学研究をリーダーする研究者たちが歴代の教員となり、現象学をはじめとして顕著な業績を挙げた研究者を輩出してきた。このような伝統を受け継ぎつつ、哲学研究を国際的な場でさらに推進しようとしている。第二に、以上に加えて近年は、現代社会が抱える諸問題に哲学の視点から向かう試みに意欲的に取り組んでいる点が、特色として挙げられる。このため、倫理学専攻分野と連携しつつ、科学研究費、受託研究費（日本学術振興会 人文・社会科学振興研究事業）を積極的に導入し、一連の研究プロジェクト全体を、「人間の 21 世紀的 Well-Being 研究プロジェクト」として総括して、文学研究科の主要研究プロジェクトの一つとして推進している。現在は「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」（科学研究費補助金基盤研究（A））をテーマに、科学技術倫理を中心にしたアクチュアルな課題と取り組んでいる。また 2008 年度からは、理学研究科のグローバル COE 「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」に講座として関わり、事業の展開に積極的に協力している。

### I 組織

#### 1 教員数（2009 年 9 月現在）

教授：2

准教授：3

講師：0

助教：0

教授：野家 啓一 座小田豊

准教授：直江清隆 荻原理 原 塑

なお、2007年3月末をもって清水教授は他大学に転出した。

## 2 在学生数（2008年9月現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生	科目等履修生
45	2	7	14	2	0

## 3 修了生・卒業生数（2005～2009年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)
05	11	6	6
06	7	7	7
07	13	5	2
08	11	2	0
09	0	0	0
計	42	20	15

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2005～2009年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
05	0	1	1
06	4	0	4
07	1	2	3
08	2	0	2
09	2	0	2
計	9	3	12

\*2009年度は、9月末までの数字

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

後藤嘉也、2005年、『他なるものの声—ハイデガーにおける循環と転回—』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・篠憲二、教授・清水哲郎、教授・

座小田豊

飯野勝己、2006年、『言語行為と発話解釈—コミュニケーションの哲学に向けて—』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・清水哲郎、教授・座小田豊、助教授・戸島喜代志

三谷鳩子、2006年、『トマス・アキナスにおける神の似像としての人間』

審査委員：教授・清水哲郎（主査）、教授・野家啓一、教授・座小田豊、教授・篠憲二、講師・荻原理、

小笠原史樹、2006年、『全能論の臨界点—トマス・アキナスの哲学的神学—』

審査委員：教授・清水哲郎（主査）、教授・野家啓一、教授・座小田豊、助教授・荻原理

張 政遠、2006年、『Experience, Other, Body and Life – On Nishida Kitaro’s

Phenomenological Philosophy – (経験、他者、身体、生命—西田幾多郎の現象学的哲学をめぐって)』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・清水哲郎、教授・座小田豊、助教授・戸島喜代志、助教授・直江清隆、助教授・荻原理

伊藤周史、2007年、『絵画の視覚とその存在論的思考—現象学的像理論とメルロ＝ポンティにおける可視性の哲学—』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・座小田豊、准教授・戸島喜代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理

滝口清栄、2007年、『ヘーゲル「法（権利）の哲学」—形成と展開—』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・野家啓一、准教授・戸島喜代志、准教授・直江清隆

野家伸也、2007年、『自然化された現象学—知の再統合のための試論—』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・森本浩一、准教授・戸島喜代志、准教授・直江清隆

山田圭一、2008年、『知識・懐疑・確実性—ウィトゲンシュタイン最後の思考—』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・座小田豊、教授・森本浩一、准教授・直江清隆、准教授・荻原理

井頭昌彦、2008年度、『多元論的自然主義の可能性』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・座小田豊、教授・戸島喜代志、教授・森本浩一、准教授・直江清隆、准教授・荻原理

信太光郎、2009年度、『ハイデガー思想における生命論的思考の解明—死すべきものの自由をめぐって—』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・野家啓一、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、

千田芳樹、2009年、「E・カッシーラーの「文化哲学」研究——神話論的視点から——」

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・野家啓一、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	8	1	1	1	11
06	7	2	1	3	13
07	4	0	1	4	9
08	8	3	1	3	15
09	2	1	0	1	4
計	29	7	4	12	52

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
05	2	3	8	2	15
06	0	10	7	0	17
07	0	0	3	1	4
08	6	5	5	1	17
09	0	1	1	0	2
計	8	19	24	4	55

### 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

阿部ふく子「ギリシア的共同原理と近代国家の接点——歴史哲学主題化以前のヘーゲル国家論」、『思索』（東北大学哲学研究会）、第38号、2005年

阿部ふく子「思弁的思考と弁証法——思弁哲学の困難と可能性をめぐるヘーゲルの視点」、『東北哲学会年報』、東北哲学会編、第23号、pp.19-32、2007年

阿部ふく子「理性の思弁と脱自——ヘーゲルとシェリングにおける理性の可能性に関する考察——」、『ヘーゲル哲学研究』、日本ヘーゲル学会編、第14号、

- pp.149-161、2008年
- 阿部ふく子（訳・解題）、F.W.J.シェリング「F.I.ニートハンマー著『現代の教育教授理論における汎愛主義と人文主義の抗争』への批評」、『知のトポス』、新潟大学大学院現代社会文化研究科「世界の視点をめぐる思想史的研究」プロジェクト編、第4号、pp.79-116、2009年
- 飯野勝己『言語行為と発話解釈——コミュニケーションの哲学に向けて』勁草書房、2007年
- 井頭昌彦「クワインにおける物理主義と自然化された認識論」、『科学哲学』38-2号、2005年
- 井頭昌彦、「分析性は理解不可能な概念なのか?」、『哲学』（日本哲学会）、第58号、2007年
- 井頭昌彦、「翻訳／訳者解説（ハンス・ラダー「実験科学における再現と非局所性）」、『MORALIA』（東北大学倫理学研究会）、第14号、2007年
- 伊藤周史「視覚における根底的思考の経験」、『現象学年報』2006年
- 伊藤周史（翻訳・解題）、劉國英「視覚の狂気——メルロ＝ポンティにおける現象学者としての画家」（Kwok-ying LAU, *The Madness of Vision: The Painter as Phenomenologist in Merleau-Ponty*）、東北大学哲学研究会雑誌『思索』第40号、2007年
- 伊藤周史（翻訳・解題）、J.A.コメニウス『光の道』第8章～第13章（Johannes Amos Comenius, *Dílo Jana Amose Komenského*, vol.14, Academia, Praha, 1974, pp. 279-369 の翻訳と解題）、日本コメニウス研究会雑誌『日本のコメニウス』第18号、2008年
- 遠藤健樹「戦間期シュトラウスにおける「道徳的拘束性」の問題」、『レオ・シュトラウスの哲学とシュトラウス学派政治思想の研究 課題番号 17320022 平成17年度～19年度科学研究補助金（基盤研究(B)）研究成果報告書』、2008年3月31日、pp.129-149.
- 遠藤健樹「歴史・自然・政治——一九三〇年代のカール・レーヴィット」、『東北哲学学会年報』（東北哲学会）、第25号、2009年
- 小笠原史樹「トマス・アキナスの全能論」『中世思想研究』、47、2005年
- 小笠原史樹「神の絶対的能力——トマス哲学の一断面」『哲学』（日本哲学会）第57号、2006年
- 齋藤直樹「仮面」としてのディオニュソス—初期ニーチェにおける「ディオニュソスの象徴法」の概念について、『倫理学年報』54号、2005年

- 齋藤直樹、行為の意味についての「表出主義的議論」の妥当性に関する一考察—  
エアーならびにスティーブソンによる「情動主義」の意味論の検討を介して、『モラリア』第13号、東北大学倫理学研究会編、2006年
- 佐藤駿、「知覚意味のダイクシス」、フッサール研究会、於・関西大学、2007年3月。佐藤駿、「指示と構成」、『思索』40号、2007年。113-134
- 佐藤恒徳「無限の論理と無限の美感——カントの崇高論——」、『倫理学年報』、第57集、2008年  
(翻訳) 佐藤恒徳 ゲルノット・ベーム「カントにおける自己開化」、『思索』(東北大学哲学研究会)、第40号、2007年
- 佐藤優子「ハイデガーとキリスト教」、『創文』(創文社)、474号、2005年。
- 佐藤優子「人間が神に向き合う最後の可能性——「最後の神」」、鹿島徹・相楽勉・佐藤優子・関口浩・山本英輔・H.P.リーダーバッハ共著『ハイデガー『哲学への寄与』解説』(平凡社)、2006年。
- 佐藤優子、「宗教的生」とは何か——ハイデガー宗教現象学講義をめぐって——、『東北哲学会年報』(東北哲学会)、第23号、47頁—58頁、2007年。
- 信太光郎「力と歴史—〈力学的差異〉の観点によるハイデガー哲学の再解釈の試み—」『倫理学年報』、55、2006年
- 信太光郎「ハイデガーの生命論的時間論」、『現象学年報23』日本現象学会編2007年
- 信太光郎「人間の根源的有限性と時間—死すべきものの自由をめぐるハイデガーの思考」、『思索』(東北大学哲学研究会)、第41号、2008年
- 鈴木亮三「人間の変容と労働—ヘーゲルの労働論を手引きに」、東北哲学会年報、第24号、43-58頁、2008年。
- 田代志門「確率化する医療と『インフォームド・コンセント』の誕生」、杉田米行監修『日米医療保障比較』、アーキテクト、2006年
- 田代志門「被験者保護システムの構築に向けて」、『臨床倫理学』、4、2006年
- 田代志門「医療倫理における『研究と治療の区別』の歴史的意義——日米比較の視点から」、『臨床倫理学』、4、2006年
- 千田芳樹「カッシーラー『国家の神話』における政治的神話批判の意義」、『シェリング年報』、第13号、2005年
- 張政遠“Japanese Philosophy in Chinese-speaking Regions”、*Japanese Philosophy Abroad* (単行本)、2004年
- 張政遠「西田幾多郎の生命の哲学」、『東北哲学会年報』、21、2005年

- 二瓶真理子「ポパーにおける科学の合理性」、『思索』、38、2005年
- 二瓶真理子、「人間／非人間が作り出す世界——アクターネットワーク概観」、『モラリア』、東北大学倫理学研究会、第14号、61 - 77、2007年
- 二瓶真理子、「経験的基礎と世界3」、『東北哲学会年報』、東北哲学会、第24号、29 - 41、2008年
- 二瓶真理子、「ポパー、心の哲学への視点」、『ポパー・レター：日本ポパー哲学研究会会報』（日本ポパー哲学研究会）、VOL.20-No.2、2009年
- 日笠晴香「R・ドゥオーキンにおける生の不可侵性と生死に関する決定」、『思索』（東北大学哲学研究会）、第39号、2006年
- 日笠晴香「一つの人生か別の人格か——事前指示の有効性をめぐって——」、『医学哲学・医学倫理』、第25号、2007年
- 日笠晴香「予め決めておく——事前指示をどう考えるか」、清水哲郎編『高齢社会を生きる 老いる人／看取るシステム』東信堂、2007年。
- 福間 聡『現代倫理学事典』、弘文堂、2006年11月(単行本、共著)人名項目(「C.オッフエ」、「J.C.ハーサニィ」、「R.プライス」、「R.B.ペリー」、「I.M.ヤング」、「D.K.ルイス」、「J.ロイス」、「G.サンタヤナ」)、事項項目(「動物の権利」、「肉食主義」)、および「倫理学基本文献年表」を担当。
- 福間 聡「理由の復権 —公共的理性に基づく正当化—」、南山大学社会倫理研究所『社会と倫理』2006年5月、第19号、pp. 44-58。
- 福間 聡『ロールズのカント的構成主義 —理由の倫理学—』、勁草書房、2007年2月(単行本、単著)
- 福間 聡『経済倫理のフロンティア』、ナカニシヤ出版、2007年5月(単行本、単著)第11章「福祉国家の原理と課題」、第12章「福祉社会の可能性」を担当(共同執筆者 柘植尚則・田中朋弘・浅見克彦・深貝保則・柳沢哲哉)。
- 福間 聡『書評：渡辺幹雄著／「ロールズ正義論とその周辺」/春秋社(2007)』、週刊読書人、2007年8月31日(その他)
- 藤尾靖彦「脳神経科学と暴力」『モラリア』15号、10-31頁、2008年
- 藤尾靖彦「幸福と恩寵 —カント実践哲学における幸福主義批判の射程」、『東北哲学会年報』25号、2009年
- 松浦明宏 単著『プラトン形而上学の探求 - 『ソフィステス』のディアレクティケーと秘教-』東北大学出版会、2006年4月
- 松浦明宏 項目翻訳執筆「医療倫理(ヨーロッパの歴史：現代)II.南ヨーロッパ」「医療倫理(ヨーロッパの歴史：現代)III.ベネルクス諸国」、「医療倫理(ヨ

- 一ロッパの歴史：現代) VIII.中央および東ヨーロッパ』、『生命倫理百科事典』丸善、2007年1月
- 三谷鳩子「トマスにおける自己認識」、『哲学』(日本哲学会)、第57号、2006年
- 三谷鳩子「トマスの恩寵論におけるハビトゥス概念の一考察」、『中世思想研究』(中世哲学会)、第49号、2007年
- 山下哲朗「分節から可能性へーハイデガーにおけるロゴス規定の変容に見る世界概念の仕上げ」、『思索』(東北大学哲学研究会)、第39号、2006年
- 山下哲朗「カテゴリー的直観と〈存在への問い〉」、『東北哲学会年報』、東北哲学会編、第24号、pp.59-72、2008年
- 山田圭一「間違いの可能性と懐疑論」、『東北哲学会年報』、第21号、2005年
- 山田圭一「懐疑論を文脈主義によって解決する方法」、『科学基礎論研究』(科学基礎論学会編)、第107号、2007年
- 山田圭一「技術倫理の認識論的基盤の構築を目指してー工学の認識論に対する文脈主義的アプローチー」、『モラリア』(東北大学倫理学研究会編)、第14号、2007年
- 山田圭一「最晩年ウィトゲンシュタインの連続性テーゼが意味するもの」、『哲学』(日本哲学会編)、第59号、2008年

## (2) 口頭発表

- 阿部ふく子「歴史哲学主題化以前のヘーゲル国家論」、科学研究費(研究課題「芸術終焉論の持つ歴史的な文脈と現代的な意味についての研究」、代表者：新潟大学 栗原隆)による研究会、於・新潟大学、2005年8月
- 阿部ふく子「ヘーゲルの「作品」論——個と普遍のあいだへの視座」、北日本哲学会、於・東北大学、2006年1月
- 阿部ふく子「思弁と弁証法——思弁哲学の困難と可能性をめぐるヘーゲルの視点」、東北哲学会第56回大会、於・山形大学、2006年10月
- 阿部ふく子「理性の思弁と脱自——ヘーゲルとシェリングにおける理性の可能性に関する考察——」、日本ヘーゲル学会第6回大会、於・日本女子大学、2007年12月
- 阿部ふく子「シェリングとヘーゲルの啓蒙批判と教育・学問論」、科研費共同研究公開研究会(課題番号 20320003「空間における形の認知を介した「主体」の存立の基底に見る感覚の根源性についての研究」)、於・新潟大学、2008年8月



月

ABE Fukuko, "Conflict between cultures of the Humanism and the Enlightenment in the age of German-idealism" (ポスター発表), The 1st GCOE International Symposium "Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy", Tohoku University (Sendai), March 2009.

ABE Fukuko, Die Bedeutung des Systems als „Lernen“ der Philosophie: Zum Verhältnis zwischen der Hegelschen Erziehungsanschauung und seiner philosophischen Enzyklopädie, Internationale Hegel-Tagung der japanischen Hegel-Gesellschaft in Tokio, 4. März, 2009.

阿部ふく子「ヘーゲルのアルプス紀行について」、科研費共同研究公開研究会（課題番号 20320003「空間における形の認知を介した「主体」の存立の基底に見る感覚の根源性についての研究」）、於・新潟大学、2009年8月

伊藤周史「視覚における根本的思考の経験」、日本現象学会、2006年10月

遠藤健樹「戦間期シュトラウスにおける「道徳的拘束性」の問題」、第13回政治哲学研究会、2007年8月28日

井頭昌彦「分析性は理解不可能な概念なのか？—記述か規範的提案か—」、北日本哲学研究会、2005年1月8日

井頭昌彦、横地徳広、戸島 貴代志、「大学間における工学倫理教育プログラムの改訂用マニュアル作成—工学関連学会での倫理規定を踏まえつつ—」(ポスター発表)、東北大学若手萌芽研究育成プログラム (ERYS) 研究成果発表会、2007年7月

遠藤健樹「実践的実在性と超感性的自然」東北大学哲学研究会、『思索』例会、2005年6月6日

遠藤健樹「戦間期シュトラウスにおける「道徳的拘束性」の問題」、第13回政治哲学研究会、2007年8月28日

遠藤健樹「歴史・自然・政治——一九三〇年代のカール・レーヴィット」、東北哲学学会第58回大会、2008年10月

大塚良貴「言語行為としての歴史の物語り」、〈社会と臨床〉研究会、2005年7月9日

大塚良貴「美のトポロジー」、哲学・思想若手研究者の会、2006年3月19日

佐藤恒徳「論理的な大きさと美感的な大きさ——無限論としての崇高論——」カント研究会、2006年3月25日

佐藤恒徳「無限の論理と無限の美感——カントの崇高論——」日本哲学会、2007

年 5 月 20 日

佐藤優子、「「宗教的生」とは何か—ハイデガー宗教現象学講義をめぐって」、東北哲学会、山形大、2006 年 10 月 22 日。

信太光郎「ハイデガーの生命論的時間論」、日本現象学会第 28 回大会、2006 年 11 月

鈴木亮三「ヘーゲルの「精神」概念がギリシア世界から継承したもの」、東北大学哲学研究会、2005 年 6 月 12 日

鈴木亮三「死と再生—ヘーゲル『精神現象学』を導きとして」（日本哲学会）

鈴木亮三「異類女房譚—二つの鯉女房」（静岡大、山梨大合同研究会）

鈴木亮三「人間の変容と労働」、東北哲学会第 57 回大会、東北大学、2007 年 10 月。

SUZUKI Ryozo, “Nature and Technics from a philosophical view point- Work as an act of transformation of human nature through technics”（ポスター発表）, The 1st GCOE International Symposium “Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), March 2009.

田代志門「臨床研究の社会的コントロール」、公開シンポジウム「臨床研究の倫理—被験者保護システムの展望」、於・ホテルリッチフィールド仙台、2006 年 2 月

田代志門「『研究の定義』をめぐる争い」、第 25 回日本医学哲学・倫理学会大会、於・大阪大学、2006 年 10 月

張 政遠“Japanese Philosophy in Chinese-speaking Regions”、Source Book in Japanese Philosophy(南山大学)、2004 年 6 月 7 日

張 政遠「西田幾多郎の生命の哲学」、東北哲学会、2004 年 10 月 23 日

張 政遠“The Problem of Evil in Confucianism”、Religion and Evil (Vrije Universiteit Amsterdam)、2005 年 3 月 19 日

張 政遠「身体と道具」、日本現象学会、2005 年 11 月 13 日

張 政遠「身体与道具」、現象学与世界(香港中文大学)、2005 年 12 月 29 日

浪岡 淳「自己同定の基層」、日本科学哲学会・第 38 回大会（ワークショップ「自己同定とは何か？」）、2005 年 12 月 4 日

二瓶真理子「ポパーにおける真理と真理近似性」、東北大学哲学研究会、『思索』例会、2005 年 6 月 27 日

二瓶真理子「科学的事実はつくられているのか？—社会構成主義と实在論の問題」、北日本哲学研究会、2006 年 1 月 14 日

二瓶真理子、「ポパーにおける心身問題と「心の哲学」」、日本ポパー哲学研究会、

- 日本大学文理学部キャンパス、2008年7月5日
- 二瓶真理子、「科学的事実はつくられているのか？ 社会構成主義的实在論の構成」、  
Sendai Logic and Philosophy Seminar、2009年3月
- NIHEI Mariko, "Applying the Research Program Theory for Elucidation of the Notion of Scientific Literacy" (ポスター発表), The 1st GCOE International Symposium "Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy", Tohoku University (Sendai), March 2009.
- 二瓶真理子、「ポパー3世界説再考」、科学基礎論学会2009年度総会、2009年6月
- 日笠晴香「R・ドゥオーキンにおける生の不可侵性と生死に関する決定」、東北大学哲学研究会、2006年6月
- 日笠晴香「一つの人生か別の人格か——事前指示の有効性をめぐって——」、日本医学哲学・倫理学会、於・大阪大学、2006年10月
- 福間 聡「フレーゲ-ゲーチ問題と規範-表出主義—論理と理由の観点から—」、第56回東北哲学会、山形大学小白川キャンパス、2006年10月。(国内学会)
- 福間 聡「ロールズ哲学から見た規範倫理学とメタ倫理学—政治哲学における「理由」の復権—」、南山大学社会倫理研究所懇話会(2006年第2回)、南山大学名古屋キャンパス、2006年6月。(国内研究会)
- 福間 聡「Allan Gibbard, *Wise Choices, Apt Feelings* をめぐって」、広島大学応用倫理学プロジェクト研究センター2006年度第二回例会、ホテルグランヴィア広島、2006年12月。(国内研究会)
- 藤尾靖彦「幸福と恩寵—カント実践哲学における幸福主義批判の射程」、東北哲学会第58回大会、秋田大学(秋田)、2008年10月
- FUJIO Yasuhiko, "An Interface between Science-Technology and Society: Evaluation and Acceptance of Risk" (ポスター発表), The 1st GCOE International Symposium "Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy", Tohoku University (Sendai), March 2009.
- 松浦明宏「プラトンの対話篇に書かれた秘教 - 「あらぬもの」のエイドス-」、第4回多摩哲学会、2006年9月
- 松浦明宏「徳とは何か—隠れたカリキュラム再考—」、第56回東北哲学会、2006年10月
- 松浦明宏「「隠れたカリキュラム」概念の再考」、神戸大学医学部保健学科学習会「看護教育における『隠れたカリキュラム』に関する研究」、2007年1月
- 三谷鳩子「トマスの恩寵論におけるハビトゥス概念の一考察」、中世哲学会(岡山

大学)、2005年10月  
山田圭一「ウィトゲンシュタインと懐疑論—最晩年連続主義への転換点を探って—」、若手研究者フォーラム、2005年7月  
山田圭一「ウィトゲンシュタイン的文脈主義によって知識を壊れにくくする」、哲  
学若手研究者フォーラム、2008年7月  
山下哲朗「ハイデガーにおけるロゴス規定の変容に見る、世界概念の仕上げ」、東  
北大学哲学研究会、2006年6月  
山下哲朗「カテゴリー的直観と〈存在の問い〉」、第16回「現象学を語る会」、2007  
年6月  
山下哲朗「カテゴリー的直観と〈存在への問い〉」、東北哲学会第57回大会、2007  
年10月  
YAMASHITA Tetsurou, "Science and its ontological genesis" (ポスター発表), The 1st  
GCOE International Symposium "Weaving Science Web beyond Particle-matter  
Hierarchy", Tohoku University (Sendai), March 2009.  
山下哲朗「カテゴリー的直観とアプリアリな全体性—ハイデガーによるカテゴリー  
的直観の領得をめぐる—」、第8回フッサール研究会、2009年3月

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

福間 聡 日本倫理学会 和辻賞 2007年11月  
山田圭一 日本哲学会 若手研究者奨励賞 2008年5月

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

2002～2004年度 PD採用 1名  
2003～2004年度 DC2採用 1名  
2003～2005年度 DC1採用 1名  
2003～2005年度 PD採用 1名  
2004～2005年度 DC2採用 2名  
2005～2006年度 DC2採用 1名  
2007～2009年度 DC1採用 1名

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2003～05年度 大学院 Ecole Normale Supérieure (フランス))

## 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
05	0	1	1
06	0	1	1
07	0	0	0
08	0	0	0
09	2	0	2
計	2	2	4

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
05	0(1)	1(3)	1(3)
06	0(1)	0(3)	0(4)
07	0(0)	0(3)	0(3)
08	0(0)	0(0)	0(0)
09	0(0)	0(0)	0(0)
計	0(2)	1(9)	1(11)

( )内は在籍計

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

千葉 胤久	北海道教育大学旭川校講師	2004年度
山本 史華	東北大学薬学研究科 COE 助手	2004年度
竹之内 裕文	東北大学文学研究科助手	2005年度
菅沼 聡	東北大学文学研究科助手	2006年度
竹之内 裕文	静岡大学農学部助教授	2006年度
張 政遠	香港中文大学講師	2007年度
菅沼 聡	北海道教育大学函館校准教授	2008年度
齋藤 直樹	東北大学文学研究科助教	2008年度
齋藤 直樹	盛岡大学文学部准教授	2009年度

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

なし

## 8 客員研究員の受け入れ状況

なし

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

ガブリエル・アーベレス（ビーレフェルト大学講師）・・・）2006年7月

フィリップ・モッセ（フランス・経済労働社会学研究所（LEST）所長）2006年9月

劉 國英（香港中文大学教授）2006年11月

チャールズ・バーネット（ケンブリッジ大学教授）2006年12月

リュック・ブリッソン（社会科学研究所教授）2007年1月

林 嵐（吉林大学教授）2006年12月、2007年2月

ハンス・ラダー（アムステルダム自由大学教授）2007年3月

ゲルノート・ベーム（ダルムシュタット工科大学名誉教授）2007年4月

ロナルド・ブルジーナ（ケンタッキー大学教授）2007年7月

張 政遠（香港中文大学講師）2007年8月

ギュンター・ゲバウアー（ベルリン自由大学教授）2007年9月

ダニエル・オグデン（エクセター大学教授）2007年9月

カロリナ・グリュンシュロス（ハインリッヒ・ハイネ大学講師）2007年9月

ドン・アイディ（ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校 Distinguished Professor）2008年9月

アンドリュー・フィーンバーク（サイモン・フレーザー大学教授、カナディアン・リサーチチェア）2009年3月

ラングドン・ウィナー（ニューヨーク州 レンセラー・ポリテクニク・インスティテュート教授）2009年3月

クラウス・ヘルト（ドイツ ヴッパタール大学名誉教授）2009年11月

## 10 刊行物

『思索』（東北大学哲学研究会） 年刊

『モラール』(東北大学倫理学研究会) 年刊

『東北哲学会年報』（東北哲学会） 年刊

『臨床倫理学』 不定期 1号（2000）、2号(2002)、3号（2004）、4号（2006）

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

- 東北哲学会事務局（2005～2009年度）
- 2005年度 国際中世哲学会年次コロキウムの主催（京都国際会館）：日本学術振興会国際研究集会として開催。
- 2005年度 東北哲学会第55回大会・総会開催およびシンポジウムと講演会の企画・主催：21世紀的 Well-Being プロジェクト
- 2005年度 第8回北日本哲学研究会開催（北海道大学哲学研究室と合同で、大学院生が企画して開催する研究会。
- 2005年度 プロジェクト研究《医療システムと倫理》公開シンポジウム「臨床研究の倫理 第2回：被験者保護システムの展望」開催
- 2005年度 シンポジウム 科研「Well-being（福祉・いい暮らし・幸福）概念の再検討とその実践的適用」総括シンポジウム開催
- 2006年度4月 日本哲学会第55回大会開催(東北大学)
- 2006年度 講演会 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的考察」主催 Luc Brisson 「プラトンにおける神々」 学内 1月12日
- 2006年度 第1回公開講演会 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」
- 2006年度 KNS研究会（熊野）
- 2006年度 東北哲学会第55回大会・総会開催およびシンポジウムと講演会の企画・主催：
- 2006年度 公開シンポジウム 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」
- 2006年度 第2回公開講演会 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」（劉）
- 2006年度 講演会 日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業《医療システムと倫理》主催 2006年12月7日 ライダー・K・リー(Reidar・K・Lie)「国際共同研究の倫理」アメリカ国立衛生研究所臨床生命倫理学部門国際研究倫理セクション長 東北大学医学部長陵会館
- 2006年度 科研研究会（山内、Charles Burnett）2006年12月20日(清水中世科研)
- 2006年度 第8回 北日本哲学研究会（北海道大学にて開催）
- 2006年度 第4回公開講演会 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」（Hans Radder）
- 2006年度 シンポジウム 日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研

- 究事業《医療システムと倫理》主催 「被害のあと 医療におけるケア・補償・責任」2007年2月3日(土) ハーネル仙台
- 2007年度 第1回公開講演会 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(G.ゲバウアー)「唯物論と後期ウイトゲンシュタイン」学内 9月4日
- 2007年度 第2回公開講演会 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(Daniel Ogden)「ギリシャ・ローマ世界における魔術と幽霊」学内 9月5日
- 2007年度 第1回公開シンポジウム 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」10月27日予定
- 2007年度 第1回オープンフォーラム 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(東北大学未来科学技術協同センター組織マネジメントプロジェクト、大阪大学コミュニティーデザインセンタと共催) 予定
- 2007年度 東北哲学会第56回大会・総会開催およびシンポジウムと講演会の企画・主催：
- 2007年度 講演会 「アフォーダンスの倫理学」(河野) 11月5日
- 2007年度 KNS研究会 「社会的合意の哲学」(桑子) 12月4日
- 2007年度 KNS研究会 「経験批判としての臨床哲学」(中岡) 12月19日
- 2007年度 第9回 北日本哲学研究会(東北大学にて開催)
- 2007年度 公開シンポジウム「医療・介護現場における価値評価と意思決定」(東北大学21世紀COEプログラムCRESCENDO(医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点)) 2月2日
- 2008年度 KNS研究会 「メルロポンティ『眼と精神』における視覚の存在論」「ドゥルーズと歴史の概念について」(村田) 7月16日
- 2008年度 第2回オープンフォーラム 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(東北大学未来科学技術協同センター組織マネジメントプロジェクト、大阪大学コミュニティーデザインセンタと共催) 8月30日
- 2008年度 第1回公開講演会 科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(Don Ihde)“Postphenomenology: Human and Machinic Embodiments” 9月16日
- 2008年度 キックオフミーティング 東北大学GCOEプログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」 9月29日
- 2008年度 KNS研究会 「ドゥルーズと歴史の概念について」(檜垣) 12月10日



日

2008年度 講演会 「マスメディアの哲学的次元—情報倫理の問題を中心に—」  
(大黒) 12月16日

2008年度 第10回 北日本哲学研究会 (北海道大学にて開催)

2009年度 第1回国際シンポジウム 東北大学 GCOEプログラム「物質階層を  
紡ぐ科学フロンティアの新展開」 3月5日～7日

2009年度 公開講演会 (Kraus Held) 11月3日

2009年度 第2回国際シンポジウム 東北大学GCOEプログラム「物質階層を紡  
ぐ科学フロンティアの新展開」 2月18日～19日

## 1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2005年度 東北大学哲学研究会 (『思索』発表会) 開催 (6月6, 13, 20, 27日 文  
学研究科棟にて)

2005年度 第29回フッセル・アーベント開催 (講師: 戸島貴代志)

2006年度 東北大学哲学研究会 (『思索』発表会) 開催 (6月7, 14, 21, 文学研  
究科棟にて)

2006年度 第30回フッセル・アーベント開催 (講師: 後藤嘉也)

2007年度 東北大学哲学研究会 (『思索』発表会) 開催 (6月3, 14, 21, 28日 文  
学研究科棟にて)

2007年度 第31回フッセル・アーベント開催 (講師: ベーメ、小川侃)

2008年度 東北大学哲学研究会 (『思索』発表会) 開催 (6月9, 16日 文学研究  
科棟にて)

2008年度 第32回フッセル・アーベント開催 (講師: 野家伸也)

2009年度 第33回フッセル・アーベント開催 (講師: 村上靖彦)

## 1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

本研究分野は、倫理学専攻分野と連携して、哲学講座としての研究活動を行っ  
ており、ことに最近では人間の21世紀的 Well-being 研究プロジェクトとして、研究  
を順調に展開していると評価できる。今後は理学研究科のグローバルCOE「物  
質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」に積極的に参加すると共に、より国際  
的な場での活躍へ向けて、一層の努力をしたい。また、研究成果の社会的還元に  
ついては、大学院の学位授与がまだまだ不十分である。ここ5年間で在

籍のまま学位をとった件数は0であるが、退学したのち規定の年限内で学位をとるものは平均して毎年2名という状況である。これは指導を強化することにより、今後はさしあたって毎年2名程度は出すように努力する必要がある。今年度はすでに2名が学位をとっており、さらに1名提出予定である。退学後1年以内に提出するという条件がついた大学院生に移行しつつあることもあって、学位授与数が増加すると見込まれる。

修了後の就職については、以前よりも厳しい状況になってきており、大学等の研究機関の研究・教育職以外の道を見出す必要がある。

### Ⅲ 教員の研究活動（2005～2009年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

野家 啓一「臨床と哲学のあいだ」、国際高等研究所『臨床哲学の可能性』所収、  
2005年3月

野家 啓一「科学技術との共生——科学技術社会論（STS）の視点から」、『人間と社会』（東京農工大学）第16号、2005年4月

野家 啓一「＜真理＞の構成的側面」、『現代のエスプリ』第454号、至文堂 2005年5月

野家 啓一「実証主義の興亡——科学哲学の視座と所見」、盛山和夫ほか（編）『＜社会＞への知／現代社会学の理論と方法（下）』所収、勁草書房、pp.105～124、  
2005年8月

野家 啓一「人文学は何の役に立つのか——＜スローサイエンス＞の可能性」、『学士会会報』854号、社団法人学士会、pp.53～58、2005年9月

野家 啓一「歴史認識と歴史叙述——ナラトロジー（物語り論）の視点から」、芦津丈夫ほか（編）『文化における＜歴史＞』所収、人文書院、pp.231～257、  
2006年11月

野家 啓一「物語り論の可能性」、宮本久雄・金泰昌（編）『シリーズ物語り論1 他者との出会い』所収、東京大学出版会、pp.1～23、2007年1月

野家 啓一「存在するとは物語られることである」、『文学』第8巻第1号、岩波書店、pp.60～66、2007年1月

野家 啓一「人間存在の修羅と覚醒：今村社会哲学の射程」、『東京経大会誌』第259号、東京経済大学経済学会、pp.95～105、2008年3月

野家 啓一「構成主義とは何だろうか：科学哲学の視点から」、『日本物理学会誌』

- 第 63 卷第 5 号、日本物理学会、pp.381~384、2008 年 5 月
- 野家 啓一「科学のナラトロジー：＜物語りの因果性＞をめぐって」、岩波講座＜哲学＞第 1 巻『いま＜哲学する＞ことへ』、岩波書店、pp.51~72、2008 年 6 月
- 野家 啓一「哲学のアイデンティティ・クライシス」、『アルケー（関西哲学会年報）』第 16 号、関西哲学会、pp.1~11、2008 年 6 月
- 野家 啓一「＜人間＞への問いと哲学」、『総合人間学 2』『自然と人間の破壊に抗して』、総合人間学会、pp.134~138、2008 年 6 月
- 野家啓一「歴史を書くという行為—その論理と倫理」、岩波講座＜哲学＞第 11 巻『歴史／物語の哲学』、岩波書店、pp.1~16、2009 年 1 月
- 野家 啓一「不在のものの可視化—物語り行為をめぐって」、『日本文学』第 58 巻第 3 号、日本文学協会、pp.24~33、2009 年 3 月
- 野家啓一「生態学的ニヒリズムの行方」、『大航海』第 71 号、新書館、pp.122~129、2009 年 7 月
- 野家啓一「科学哲学者としての西田幾多郎」、『西田哲学会年報』第 6 号、西田哲学会、pp.1~17、2009 年 7 月
- 野家啓一「自責と自恃のあいだ—思想詩人としての辻井喬—」、『現代詩手帖』第 52 巻第 7 号、思潮社、pp.60~62、2009 年 7 月
- Noe Keiichi “Nishida Kitaro as Philosopher of Science”, *Facing the 21<sup>st</sup> Century*, (eds.) Lam Wing-keung and Cheung Ching-yuen, Nanzan Institute for Religion and Culture, pp.119-126, August 2009.
- 野家啓一「ノーベル賞の＜反時代的＞意義」、『學鐙』秋号、丸善、pp.6~9、2009 年 9 月
- 野家啓一「ガリレオに対する二度目の断罪」、『現代思想』第 37 巻 12 号、青土社、pp.60~64、2009 年 9 月
- 野家啓一「フッサール学問論の現代的射程—ベルクソンとの対比を軸に」、『哲学雑誌』第 124 巻第 796 号、哲学会（編）、有斐閣刊、pp.83~100、2009 年 10 月
- 座小田 豊 「問いかけ（ること）と知ること——哲学とは何か」、中村捷編『人文科学ハンドブック』（2005 年 3 月）
- 座小田 豊「フィヒテにおける「真実の生」をめぐって」（科学研究費成果報告書『Well-being(福祉・いい暮らし・幸福)概念の再検討とその実践的適用』（代

- 表者：篠憲二 2006年3月) 8-19頁
- 座小田 豊 「芸術と無限」(栗原隆編『芸術の始まる時、尽きる時』東北大学出版会、2007年3月) 427-447頁
- 座小田 豊 「フィヒテ-無限の自我と真実の生」(加藤尚武編『哲学の歴史第7巻』中央公論新社、2007年7月) 300-346頁
- 座小田 豊 「「真実の生」における人間——フィヒテ宗教論の射程」(『フィヒテ研究』日本フィヒテ協会、第15号、2007年11月)
- 座小田 豊 「「無限」の形象化と心の襞—構想力の可能性について—」(栗原隆編『形と空間のなかの私』東北大学出版会、2008年4月) 79-98頁
- 座小田 豊 「「自由」の運命としての否定性——「おのれを実現する懐疑主義」」(『ヘーゲル哲学研究』日本ヘーゲル学会、第14号、2008年12月) 66-70頁
- 座小田 豊 「近代哲学における「神」概念の行方——「合理性」概念の哲学史的理解のために——」科学研究費補助金基盤研究(A)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(研究代表者 野家啓一) 成果報告書 2009年3月
- 座小田 豊 「「神を認識する」とはどのようなことか——」(『シェリング年報』日本シェリング協会、第17号、2009年9月)
- 直江清隆 「状況に〈しかるべく〉応じた行為」、東洋大学哲学科編『哲学をつくる』、知泉書館、2005年4月、p.191~219.
- 直江清隆 「技術と善き生」、『東北哲学会年報』No.11、2005年5月、p.53~p.62.
- 直江清隆 「フォード・ピント事件」、『経済倫理の諸伝統の比較研究』(科学研究費中間報告書)、2005年6月、p.153-161.
- 直江清隆 「技術の哲学と倫理」、新田孝彦、蔵田伸雄、石原孝二編『科学技術倫理を学ぶ人のために』、世界思想社、2005年6月、p.149~173.
- 直江清隆 「機能と意図の問題圏に寄せて」、『モラリア』第13号、東北大学倫理学会、2006年10月、p.1~12.
- 直江清隆 「技術のインターフェイス 人間-人工物-世界」、『岐路に立つ人文学』、大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」、2007年1月、p.61~81.
- 直江清隆 「カッシーラー」、須藤訓任編『哲学の歴史』第9巻、中央公論新社、2007年8月、p.429-~52

- 直江 清隆 Design Culture and acceptable Risk、P.Vermaas et.al.(ed.), Philosophy and Desing, Springer,2008年2月
- 直江清隆 「技術の哲学と倫理という課題」『モラリア』第14号、東北大学倫理学研究会、2007年10月、p.1~7.
- 直江 清隆「宇宙技術の価値」 伊藤邦武編『科学／技術の哲学』（岩波講座哲学第10巻）、岩波書店、2008年9月、p.176-198。
- 直江清隆「創造と受容(1)」『思索』第41号、2008年10月、p.1-14。
- 直江清隆「脳と心の哲学的問題圏へ」、『モラリア』第15号、2008年10、p.1~9。
- 直江清隆「科学技術の合理性と組織における倫理」科学研究費補助金基盤研究(A)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」(研究代表者 野家啓一) 成果報告書 2009年3月、pp.78-94。
- 直江清隆「Brain-Machine Interface から見る生命という価値」 高橋隆雄、糸和彦編『生命という価値 その本質を問う』九州大学出版会、2009年4月、p.128-146。
- 直江清隆「創造と受容(2)」『思索』第42号、2009年10月、p.1-19。
- 荻原 理 「プラトン哲学をめぐる若干の考察——田中博士号請求論文・中澤博士論文との関連で」、『「行為と認知の統合理論の基礎」研究課題番号14310001平成14~16年度科学研究費補助金(基盤研究B2)研究成果報告書』、2005年3月、pp. 25-37.
- 荻原 理 「プラトンについての二つの博士論文へのコメント——中澤務「プラトン初期対話篇におけるソクラテスの倫理思想」、田中伸司「対話とアポリアーソクラテス的探求の対話としての構造——」——」、『文化』(東北大学文学会)第69巻第1・2号、2005年9月、pp. 43-60.
- 荻原理 「ジル・ドゥルーズのルクレティウス論」、『古代ギリシアにおける理性・合理性の概念—近現代の概念との対比に留意して、研究課題番号16720003、平成16年度~平成18年度科学研究費補助金、若手研究(B)、研究成果報告書』、2007年3月、pp. 28-38.
- 荻原理 「J. マクダウエルの合理性概念」、『古代ギリシアにおける理性・合理性の概念—近現代の概念との対比に留意して、研究課題番号16720003、平成16年度~平成18年度科学研究費補助金、若手研究(B)、研究成果報告書』、2007年3月、pp. 39-45.
- 荻原 理 「われわれがしていることにめまいをおぼえてはならない」、『思想』(岩波書店)1011、2008年7月、pp. 80-96.
- 荻原 理 「学位論文におけるマルクスの方法の一側面」、『文化』(東北大学文学

- 会) 第 71 号、2008 年 10 月、掲載決定。
- Satoshi Ogihara, 'The Epicurean Attitude toward Death', in *International Colloquium of Ancient Philosophy and Greco-Roman Studies -2008 Summer*, Korean Society of Greco-Roman Studies, 2008, pp. 47-58.
- 荻原 理「社会的合理性、科学的合理性、古代哲学」『科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究、研究課題番号 18202001、平成 18 年度～平成 20 年度科学研究費補助金、基盤研究(C)、研究成果報告書』、2009 年 3 月、pp. 48-60.
- Hara, S. An Ecological Theory of Rational Interpretation. *Annals of the Japan Association for Philosophy of Science*, 13(2), 17-34, 2005.
- 原 塑「抽象的記号システムと意味理論」『哲学』、第 56 号、245 頁～256 頁、2005 年
- Hara, S. The Unity of Rational Agency. *Annals of the Japan Association for Philosophy of Science*, 14(1), 39-58. 2005.
- Hara, S. Phenomenal Theory of Representational Content. A Similarity-Based Approach. *Proceedings of the 1st BESETO Conference of Philosophy*, 58-68. 2007.
- 原 塑「神経倫理学とは何か：メディア暴力規制に関する議論を例として」『UTCP 研究論集 8』、3 頁～15 頁、2007 年。
- 原 塑「脳神経倫理学の成立とその将来的課題」『創文』、第 505 号、創文社、10 頁～13 頁、2008 年
- 原 塑「食品による<社会>の増強ーオキシトシンと神経経済学」『科学』第 78 巻第 8 号、860 頁～864 頁、2008 年
- Hara, S. Media Violence within the Framework of Biomedical Ethics: Why Hurley's Argument Fails. (K.Ishihara & S.Majima (eds.). *Applied Ethics: Perspectives from Asia and Beyond*. Center for Applied Ethics and Philosophy, Graduate School of Letters, Hokkaido University, 130-137. 2008.
- 原 塑「メディア暴力と人間の自律性」(信原幸弘、原塑『脳神経倫理学の展望』勁草書房、149 頁～172 頁、2008 年
- 永岑光恵、原塑、信原幸弘「振り込め詐欺への神経科学からのアプローチ」『社会技術研究論文集』6、177 頁～186 頁、2009 年、
- 原 塑、廣野喜幸「脳科学と社会：脳科学リテラシーの観点から」『脳と心はどこまで科学でわかるか』、南山堂、2009 年
- 原 塑「脳のモジュール化と神経科学によるイノベーション」『MORALIA』第 16 号、1 頁～25 頁、2009 年

## 1-2 著書・編著

- 野家 啓一 『物語の哲学(増補新版)』 岩波現代文庫、2005年2月
- 野家 啓一 『臨床哲学の可能性』 国際高等研究所、2005年3月
- 野家 啓一 盛山和夫ほか(編) 『<社会>への知/現代社会学の理論と方法(下)』  
勁草書房、2005年8月
- 野家 啓一 『増補 科学の解釈学』 ちくま学芸文庫、2007年1月
- 野家 啓一 『ヒトと人のあいだ』(編著)、岩波書店、2007年6月
- 野家 啓一 『歴史を哲学する』 岩波書店、2007年9月
- 野家 啓一 『現代に挑戦する哲学』(編著)、学文社、2007年11月
- 野家 啓一 <哲学の歴史>第10巻 『危機の時代の哲学』(編著)、中央公論新社、  
2008年3月
- 野家 啓一 『パラダイムとは何か』 講談社学術文庫、2008年6月
- 野家 啓一 『科学技術の受容と日本文化の特質』(講演録)、J S T 社会技術研究  
開発センター、2008年12月
- 野家 啓一 『科学技術と知の精神文化』(共著)、丸善プラネット、2009年3月
- 野家 啓一 韓国語訳 『物語の哲学』、the Korean Publishing Marketing Research Institute,  
Seoul, 2009年7月
- 荻原 理 共著 高橋久一郎、大庭健、嶋津格、竹内章郎、荻原理、門脇俊介、  
内田亮子、『岩波応用倫理学講義 7・問い』、岩波書店、2004年9月、総頁  
xi + 256 + 21。担当部分：「II セミナー」「4 <ひとり>の概念は倫理学に  
おいてどれくらい重要か」、pp. 140-161.
- 信原幸弘、原塑編著 『脳神経倫理学の展望』、勁草書房、2008年

## 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

- 野家 啓一 「書評：佐々木力、山本義隆、桑野隆(編訳) 『物理学者ランダウ』、『東  
京新聞』 2005年3月
- 野家 啓一 「書評：大橋良介 『聞くこととしての歴史』、『日本経済新聞』 2005年7  
月
- 野家 啓一 「書評：この人この三冊<荻原延壽>」、『毎日新聞』 2005年8月
- 野家 啓一 「エッセイ：哲学と散歩」、『ワンデル』 2005年9月
- 野家 啓一 「解説：精神医学と哲学のあいだ」、木村敏 『自己・あいだ・時間』 ち  
くま学芸文庫、2006年5月

野家 啓一「エッセイ：博士が愛した哲学」、『図書』2006年6月  
野家 啓一「エッセイ：惑星と教養の知られざる関係」、『曙光』第22号、2006年10月  
野家 啓一 辞典項目執筆「生／生命／生活」「相互性」「対話」「ポストモダン」「歴史」「クワイン」「ルイス」「ローティ」、『現代倫理学事典』弘文堂、2006年12月  
野家 啓一「座談会：いま、なぜ<ヒトの科学>か」、『図書』2007年2月  
野家 啓一「インタビュー：“スローサイエンス”ということ」、『考えるということ』第1号、2007年3月  
野家 啓一「エッセイ：廣松哲学との出会い」、『情況』別冊、2007年5月  
野家 啓一「インタビュー：二十世紀哲学史のなかの廣松哲学」、廣松渉『カントの先験的演繹論』世界書院、2007年5月  
野家 啓一「書評：山本義隆『一六世紀文化革命』」、『山陽新聞』ほか、2007年5月  
野家 啓一「書評：江口重幸ほか（編）『ナラティヴと医療』」、『臨床心理学』第7巻第4号、2007年7月  
野家 啓一「書評：大澤真幸『ナショナリズムの由来』」、『東京新聞』2007年8月  
野家 啓一「解説：廣松渉の時代」、廣松渉『事的世界観への前哨』ちくま学芸文庫、2007年10月  
野家 啓一「エッセイ：<山仲間>としての車谷さん」、『作家 車谷長吉。魂の記録』姫路文学館、2007年10月  
野家 啓一「<男女共同参画>雑感：東北大学の取り組み」、『科哲』第9号、2007年11月  
野家 啓一「風雅月記1～3」、『朝日新聞』夕刊、2007年10月12日、11月9日、12月14日  
野家 啓一「<哲学無用論>に抗して」、『学術の動向』第12巻第12号、2007年12月  
野家 啓一 辞典項目「科学者の社会的責任」、『応用倫理学事典』、丸善、2008年1月  
野家 啓一「解説：詩人哲学者の面目」、坂部恵『かたり』ちくま学芸文庫、2008年2月  
野家 啓一「大出晁先生の<学恩>」、『大出晁そして大江晁』慶応大学出版会、2008年2月  
野家 啓一「科学技術時代のリベラル・アーツ」、『学術の動向』第13巻第5号、2008年5月  
野家 啓一「行列ができる知の快適空間へ」、『2009年版大学ランキング』朝日新聞出版、2008年5月  
野家 啓一「座談会：哲学はいま」、『図書』岩波書店、2008年5月号  
野家 啓一「不幸な出会い：『杜子春』と『秋山図』」、『芥川龍之介全集』第19巻「月報19」岩波書店、2008年7月  
野家 啓一「学問が人間性にとってもつ意味」、<哲学の歴史>別巻『哲学と哲学史』中央公論新社、2008年8月  
野家 啓一「国立大学法人化のジレンマ」、『現代思想』第36巻第12号、2008年9



- 月
- 野家啓一「科学と哲学のあいだ：パスカルにならって」、『Science web』vol.1、2008年9月
- 野家啓一「書評：大塚信一『哲学者・中村雄二郎の仕事』」、『週刊読書人』2008年12月
- 野家啓一「読書アンケート」、『みすず』、みすず書房、2009年1月
- 野家啓一「開会挨拶」、『女性百年—教育・結婚・職業—』、「女性百年」刊行委員会（編）、東北大学出版会、2009年3月
- 野家啓一「解説：＜出入自在＞の門」、大橋良介『日本的なもの、ヨーロッパのもの』講談社学術文庫、2009年5月
- 野家啓一「思い出の中公新書」、『中公新書の森』、中央公論新社、2009年5月
- 野家啓一「フロイトと科学哲学」、『フロイト全集』第12巻「月報11」、岩波書店、2009年6月
- 野家啓一「書物逍遥：『ポオ全集』のこと」、『ミネルヴァ通信』、ミネルヴァ書房、2009年6月
- 座小田豊 辞典項目執筆 「観念論」「実践」「承認」『現代倫理学事典』、弘文堂、2006年11月
- 座小田豊 翻訳：ヘーゲル「F・H・ヤコービ著作集第3巻の書評(1817年)」  
（寄川編訳『初期ヘーゲル哲学の軌跡』（ナカニシヤ出版 2006年1月）71～113頁（本文）および143～148頁（訳注部分）座小田・山口・寄川の共訳
- 座小田豊 翻訳：ヘーゲル『1820/21年美学講義：序論および総論の一部』（科学研究費成果報告書『芸術終演論の持つ歴史的な文脈と現代的意味についての研究』（代表者：栗原隆 2006年3月）91～113頁
- 座小田豊 翻訳：ヘーゲル『ドイツ憲法論』の三つの草稿（同前報告書） 115～121頁 座小田・阿部・鈴木の共訳
- 座小田豊 書評『シェリング著作集 3』（『神奈川大学評論』第55号、2006年11月）162頁
- 座小田豊 翻訳 オイゲン・フィンク『存在と人間—存在論的経験の本質について』（法政大学出版局）2007年4月（信太光郎・池田準と共訳）全350頁
- 座小田豊 書評「詩的反省の翼に乗って、ただなかに漂わん」（『ドイツ・ロマン主義研究』伊坂青司・原田哲史編、御茶の水書房、2007年）（『シェリング年報』2007年、第15号）
- 座小田豊 翻訳（共訳）：ヘーゲル『芸術の哲学 1826年夏学期の講義から』（科学研究費成果報告書『「新旧論争」に顧みる進歩史観の意義と限界、並びにそれに代わり得る歴史モデルの研究』（代表者：栗原隆 2008年3月）149-175頁（阿部ふく子と共訳）

- 座小田 豊 翻訳（共訳）：ハンス・ブルーメンベルク『コペルニクスの宇宙の生成 第2巻』（法政大学出版局）2008年7月（小熊正久・後藤嘉也と共訳）全433頁
- 座小田 豊 翻訳（単訳）：フィヒテ『道徳論の体系 1812年』フィヒテ全集第21巻（哲書房）2009年3月、181-334頁
- 直江 清隆 K. ダンジガー『心を名づけること』、平成17年2月、勁草書房（河野哲也監訳による共訳）。
- 直江 清隆 「設計＝デザインの哲学」、『旬刊 出版ニュース』2005年11月上旬号、p.30.
- 直江清隆 「設計＝デザインの哲学」（ワークショップ記録）、『科学哲学』39-1、日本科学哲学会、2006年7月、p.99-100。
- 直江清隆 「技術倫理から見た臨床研究の問題」、『臨床倫理学』No.4、プロジェクト研究《医療システムと倫理》、2006年11月、p.79~83.
- 直江清隆 項目執筆「科学倫理」「科学／研究の倫理」「アクターネットワークと集団の倫理」『応用倫理学事典』、丸善、2008年1月
- 直江清隆 解説「科学哲学によって〈つながる〉こと」、オカーシャ『科学哲学』廣瀬覚訳、岩波書店、2008年3月
- 直江清隆 「組織の責任論考序」『アソシエ 21 ニューズレター』、2008年8月、p.5~p.8.
- 直江清隆 「科学技術と哲学／倫理」『Science Web』vol.1、2008年9月、東北大学グローバルCOE物質階層を紡ぐフロンティアの新展開.p.15。
- 荻原 理 「ピレボスの快樂主義、その「極道」性」、『西洋古典叢書月報』（京都大学学術出版会）58、2005年6月、pp. 1-4.
- 荻原 理 書評・熊野純彦著『西洋哲学史——古代から中世へ——』、『週刊読書人』第2641号、2006年6月16日、p. 4.
- 荻原 理 翻訳 ジョン・ディロン「プラトン主義と、世界の危機」、『思想』（岩波書店）991、2006年11月、pp. 45-69.
- 荻原 理 「モンテーニュの見解」、『人間会議』（宣伝会議）、2006年冬号、2006年12月、pp. 214-217.
- 荻原 理 翻訳 ジョン・マクダウエル「徳と理性」、『思想』（岩波書店）1011、2008年7月、pp. 7-33.
- 荻原 理 翻訳 ジョン・マクダウエル「何の神話が問題なのか」、『思想』（岩波書店）1011、2008年7月、pp. 60-79.

荻原 理「プラトン 見つからなければ不正を犯してもいいか」、『人間会議』（宣  
伝会議）、2008年冬号、2008年12月、pp. 78-83.

原 塑「テキストからの展望、大森荘蔵『物と心』」、村田純一編『講座 哲学第5巻  
心／脳の哲学』岩波書店

原 塑「テキストからの展望、ジェームズ『心理学原論』」、村田純一編『講座 哲学  
第5巻 心／脳の哲学』岩波書店、265頁～268頁、2008年

#### 1-4 口頭発表

野家 啓一 提題発表「東北大学における科学論と現象学の研究伝統」、東北大学  
の「学問風土」シンポジウム(主催:教育学研究科)2005年3月

野家 啓一 シンポジウム提題「スローサイエンスとしての人文学」、日本学術会  
議哲学研究連絡会議公開シンポジウム「人文知の可能性」、2005年4月

野家 啓一 シンポジウム提題「日常的空間と哲学的空間」、新潟大学公開シンポ  
ジウム「空間の体験と空間の表現そして空間の創出」2005年10月

野家 啓一 シンポジウム司会「空間論」、東京大学「哲学会」、2005年11月

野家 啓一 招待講演「物語り論（ナラトロジー）の射程」、青森公立大学経営思  
想研究懇話会、2005年12月

野家 啓一 招待講演「西田生命論と『近代の超克』」、東京経済大学近代思想研究  
会、2006年1月

野家 啓一 招待講演「物語りの因果性をめぐって」、東京大学「哲学会」カント・  
アーベント特別講演、2006年4月

野家 啓一 基調講演「操作的自然主義 vs. 共生的自然主義」、「日中哲学フォーラ  
ム」浙江樹人大学、2006年11月

野家 啓一 招待講演「物語り論と科学の統合」、統合学術国際研究所講演会、2006  
年12月

野家 啓一 提題発表「心身因果をめぐって」、国際高等研究所数理脳科学研究会、  
2007年3月

野家 啓一 招待講演「科学技術の受容と日本文化の特質」、科学技術振興機構社会  
技術研究センターRISTEX 研究セミナー、2007年8月

野家 啓一 提題発表「哲学のアイデンティティ・クライシス」、関西哲学会シンポ  
ジウム、徳島大学、2007年10月

野家 啓一 提題発表「今村社会哲学の射程」、学術フォーラム「現代における社会  
と文化の理論を求めて：今村仁司記念シンポジウム」東京経済大学、2007年

10月27日

野家啓一 提題発表「科学技術時代のリベラル・アーツ」、日本学術会議第一部公開シンポジウム「21世紀の大学教育を求めて：新しいリベラル・アーツ教育の創造」中京大学、2007年12月1日

野家啓一 提題発表「宇宙の中の人間の位置」、花博コスモス・フォーラム「宇宙と人間」2007年12月9日

野家啓一 提題発表「自己認識する動物」、日本学術会議公開講演会「宇宙と生命、そして人間を考える」日本学術会議講堂、2008年2月16日

野家啓一 提題発表「科学の進展における哲学の役割」、科学技術振興機構社会技術研究センターRISTEXワークショップ、2008年2月25日

野家啓一 コメンテーター「村上陽一郎先生退職記念シンポジウム」東京大学駒場キャンパス、2008年3月26日

野家啓一 提題発表「哲学と自然科学のあいだ」、国際高等研究所数理脳科学研究会、2008年3月27日

野家啓一 基調講演「科学哲学者としての西田幾多郎」、西田哲学会大会、西田幾多郎記念館、2008年7月26日

野家啓一 Panelist “East Asian Country Philosophical Associations Joint Conference 1”, The XXII World Congress of Philosophy, Seoul National University, 2008年8月1日

野家啓一 Co-Chair of the Concluding Session “International Conference on Science and Technology for Sustainability”サピアタワー・ホール、2008年9月13日

野家 啓一 提題発表「歴史的な身体：理性と感性をつなぐもの」、旭川ポリフォニー2008「森・空気・感性」、2008年10月11日、ロワジールホテル旭川

野家 啓一 特別講演「科学・形而上学・物語り」、日本ホワイトヘッド・プロセス学会、2008年10月25日、青森公立大学

野家 啓一 提題発表「不在のものの可視化：物語り行為をめぐる」、日本文学協会第63回大会、2008年11月22日、二松学舎大学

野家 啓一 提題発表「リベラル・アーツとしての実験教育」、特色GPシンポジウム、2008年11月27日、東北大学百周年記念会館

野家 啓一 研究発表 “Nishida Kitaro as a Philosopher of Science”, Envisioning Japanese and Chinese Philosophical Potentials in 21<sup>st</sup> Century, 13 December 2008, The Hong Kong Institute of Education

野家 啓一 提題発表「主観と客観のあいだ」、認識と運動における主体性の数理

- 脳科学研究会、2009年3月11日、国際高等研究所
- 野家啓一 提題発表「科学技術の転換点」、「学問・芸術と社会」講演と討論の会、  
学術文化同友会「アルスの会」／GCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティア  
の新展開」、2009年8月22日、青葉記念会館
- 座小田 豊 シンポジウム：「フィヒテにおける「真実の生」をめぐる」（第5  
5回東北哲学会大会におけるシンポジウム「フィヒテ哲学の現代的意義——  
絶対主観と普遍道徳」（2005年10月22日））
- 座小田 豊 コメンテーター シンポジウム「芸術終焉論を読み解く」（ヘーゲル  
学会第3回大会、明治大学2006年6月18日）
- 座小田 豊 シンポジウム『フィヒテと宗教』招待提題者「「真実の生」におけ  
る人間——宗教論と知識学の間に」（第22回フィヒテ協会大会、南山大学  
2006年11月18日）
- 座小田 豊 司会 シンポジウム「精神現象学における否定的なもの」（ヘーゲル  
学会第5回大会、名古屋市立大学2007年6月16日）
- 座小田 豊 シンポジウム：「ドイツ観念論における神」（第17回シェリング協会  
大会におけるシンポジウム）の提題者：「神を認識するとはどのようなことか」  
（2008年10月4日 弘前大学人文学部にて）
- 座小田 豊 第2回日中哲学フォーラム(2009年4月24-26日)における第1分科  
会「環境、生命、共生に関する哲学の新展開」第1日目の総合司会 担当
- 直江清隆 「〈しかるべく〉なされる行為について」、玉川大学21世紀COEプロ  
グラム「全人的人間科学プログラム」心のしくみ研究生命観研究グループ第  
17回研究会、2005年3月6日。
- 直江清隆 Design Culture and acceptable Risk、Society for Philosophy and Technology  
(14th Biennial International Conference, Delft University of Technology,  
Netherlands)、2005年7月22日。
- 直江清隆 「設計、人間システム、責任」、論理・情報・設計に関する神戸シンポ  
ジウム、神戸大学、2005年9月5日。
- 直江清隆 ワークショップ企画・司会 ワークショップ「設計=デザインの哲学」  
日本科学哲学会第38回大会 2005年12月5日 東京大学
- 直江清隆 「人工物の morality をめぐって」 技術哲学研究会（日本学術振興会  
人文・社会科学振興プロジェクト研究事業《資源配分メカニズムと公正》）東  
京大学 2005年12月25日
- 直江清隆 ワークショップ司会・基調提題「Political Artifacts and their Significance」

- 第 49 回科学技術社会論研究会 2006 年 3 月 15 日 東京大学.
- 直江清隆 「生を規定する技術とそのインターフェイス；インターフェイスの強制力」 大阪大学 COE「人文学のインターフェース」 大阪大学 2006 年 1 月 15 日
- 直江清隆 「技術のナラティブへの序説」、日本科学史学会東北支部、仙台戦災復興記念館、2007 年 4 月 22 日.
- 直江清隆 コメンテータ 『脳神経倫理学の展望』合評会、東京大学大学院総合文化研究科、2008 年 9 月 26 日。
- 直江清隆 シンポジウム提題 「科学技術倫理の現在」グローバル COE プログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」のキックオフミーティング、東北大学大学院理学研究科、2008 年 9 月 29 日。
- 直江清隆 コメンテータ Colloque International “Travail et éthique”, Centre européen d'études japonaises d'Alsace. 2008.11.9.
- 直江清隆 「企業不祥事と組織倫理：事例分析から」、日独企業倫理セミナー(ハインリッヒ・ハイネ大学および基盤研究(B)「経済倫理の新たなグローバル・スタンダードの構築」と共同)、ハインリッヒ・ハイネ大学、デュッセルドルフ、ドイツ、2008 年 11 月 13 日.
- 直江清隆 シンポジウム組織委員・司会 The 1st GCOE International Symposium “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy, 東北大学、2009 年 3 月 5 日-7 日。
- 直江清隆 シンポジウム提題「高橋里美の包弁証法」 日本ヘーゲル学会、東北大学、2009 年 6 月 14 日。
- 荻原 理 プラトン哲学をめぐる若干の考察——田中博士号請求論文・中澤博士論文との関連で、シンポジウム「プラトン哲学—対話、知識そして行為」(科研「行為と認知の統合理論の基礎」主催、PHILETH 共催)、北海道大学、2005 年 1 月。
- 荻原 理 プラトン『ピレボス』で一なる「快」が語られる場所、日本西洋古典学会第 57 回大会、千里金蘭大学、2006 年 6 月。
- Satoshi Ogihara, 'The Contrast between Soul and Body in the Analysis of Pleasure in the *Philebus*', VIII Symposium Platonicum, The International Plato Society, Trinity College, Dublin, July 2007.
- Satoshi Ogihara, 'Puzzlement over the Notion of the Happiness of a City', Joint seminar with Professors G. Ferrari and S. Kato, Tokyo Metropolitan University, March 27, 2008

Satoshi Ogihara, 'Puzzlement over the Notion of the Happiness of a City', Joint seminar with Professors G. Ferrari and S. Kato (科研「ギリシャ政治哲学の総括的研究」主催)、首都大学東京、2008年3月。

Satoshi Ogihara, 'The Epicurean Attitude to Death', International Colloquium of Ancient Philosophy and Greco-Roman Studies, Donghwas Temple, Daegu, Korea, August 2008.

Satoshi Ogihara, 'The Analogy between Legislation and Medicine in Plato's *Laws*', 科研「ギリシャ政治哲学の総括的研究」2008年度総会、2008年9月

荻原 理 死に対するエピクロスの態度、第6回多摩哲学学会大会、中央大学駿河台記念館、2008年12月7日。

Satoshi Ogihara, Greek Civilization, Aletheia University, Danshui, Taiwan, April 23, 2009.

Satoshi Ogihara, Epicurus on Life and Death, Aletheia University, Danshui, Taiwan, April 23, 2009.

Satoshi Ogihara, John McDowell on Ethics, Taiwan University, Taipei, April 24, 2009.

Satoshi Ogihara, The Brothers' Challenge to Socrates in Book 2 of Plato's *Republic*, Chinese Culture University, Taipei, April 27, 2009.

Satoshi Ogihara, False Pleasures in the *Philebus*, in Presocratics and Plato: Festschrift Symposium in Honor of Charles H. Kahn, Delphi, June 5, 2009.

Hara, S. „Eine ökologische Theorie der rationalen Interpretation” 第十五回ラインラン・プファルツ州政府奨学生ワークショップ、2005年1月27日。

Hara, S. “The Unity of Rational Agency: A Reward Theory”、第五回心の哲学研究グループ・ワークショップ、フランクフルト、2005年10月21日。

原 塑「信念欲求心理学の批判的評価」科学基礎論学会総会、電気通信大学、2006年6月18日。

原 塑「メディア暴力の神経倫理学」日本倫理学会第五十七回大会、東京大学、2006年10月14日。

原 塑「動機づけられた行為の報酬理論」哲学会第四十五回研究発表大会、東京大学、2006年10月29日。

原 塑「ゲーム脳理論について倫理学はどう応えるのか-メディア暴力のニューロエシックス」シンポジウム「脳科学から倫理への挑戦」、熊本大学、2006年12月9日。

Hara, S. “Phenomenal Theory of Representational Content: A Similarity-Based Approach” 第一回 BESETO 哲学コンフェレンス、ソウル国立大学、2007年2月1日。

原 塑「神経倫理学の課題と展望」第一回名古屋神経倫理研究会、名古屋大学、2007年3月6日。

原 塑「神経科学的行為理論と意図的行為」、日本科学哲学会第40回大会、中央大学、2007年11月11日。

Hara, S. “Media Violence within the Framework of Biomedical Ethics” 第二回応用倫理国際会議（札幌）、北海道大学、2007年11月24日。

Hara, S. “Phenomenal Theory of Representational Content” 第12回国際哲学会議（ソウル）2008年8月2日

原 塑「ドイツにおける脳神経倫理」第20回日本生命倫理学会（福岡）、九州大学、2008年11月30日。

Hara, S., Yamamoto, M. 2009. The Varieties of Self. Joint Tamagawa University/Caltech Lecture-course on EMOTION. California Institute of Technology. February 18 2009.

原 塑 神経科学リテラシーとは何か 目的と概要、シンポジウム 神経科学リテラシー、東京大学、2009年5月23日

## 2 教員の受賞歴（2005～2009年度）

なし

## IV 教員による競争的資金獲得（2005～2009年度）

### （1）科学研究費補助金

野家 啓一 2005年～2007年 科学研究費補助金萌芽研究「ナラトロジー（物語り論）による『二人称の科学』の方法論的基礎づけ」研究代表者

野家 啓一 2006年～2008年 科学研究費補助金基盤研究（A）「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」研究代表者

野家 啓一 2007～2008年度 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「和算資料全文画像データベースの作成（第2部）」研究代表者

野家 啓一 2003～2005年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「<人間性の本質>観と社会的ポリシー決定」研究分担者

野家 啓一 2003～2005年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「Well—Being(福祉・いい暮らし・幸福)概念の再検討とその実践的適用」研究分担者

野家 啓一 2008年度～ グローバルCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」事業推進担当者（教育・広報担当）

野家 啓一 2009年度～ 科学研究費補助金基盤研究（B）「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究代表者



- 座小田 豊 2004～2005 年度 科学研究費補助金基盤研究(A)『芸術終演論の持つ歴史的な文脈と現代的意味についての研究』(代表者：栗原隆) 研究分担者
- 座小田 豊 2003～2005 年度 科学研究費補助金基盤研究(B)(2)『Well-being(福祉・いい暮らし・幸福)概念の再検討とその実践的適用』(代表者：篠憲二) 研究分担者
- 座小田 豊 2006～2007 年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「「新旧論争」に顧みる進歩史観の意義と限界、並びにそれに代わりうる歴史モデルの研究」 研究分担者
- 座小田 豊 2006～2008 年度 科学研究費補助金基盤研究(A)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」 研究分担者
- 座小田 豊 2008～2009 年度 科学研究費補助金基盤研究 (B)「空間における形の認知を介した「主体」の存立の基底に見る感覚の根源性についての研究」 研究分担者
- 座小田 豊 2009～2011 年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「ドイツ観念論における神概念の展相と主観性概念の現代的意義の研究」 研究代表者
- 座小田 豊 2009～2011 年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」 研究分担者
- 直江 清隆 2003～2005 年度 科学研究費補助金基盤研究 (C)「技術哲学の展開の可能性と実践的意義に関する研究」 研究代表者
- 直江 清隆 2003～2006 年度 科学研究費補助金基盤研究(A)「経済倫理の諸伝統の比較研究」 研究分担者
- 直江 清隆 2006～2007 年度 科学研究費補助金基盤研究 (C)「設計＝デザインの哲学および倫理に関する研究」 研究代表者
- 直江 清隆 2006～2007 年度 科学研究費補助金基盤研究(A)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」 研究分担者
- 直江 清隆 科学研究費補助金基盤研究(A)「ドイツ応用倫理学の総合研究」 研究分担者
- 直江 清隆 科学研究費補助金基盤研究(B)「経済倫理の新たなグローバル・スタンダードの構築」 研究分担者
- 直江 清隆 科学研究費補助金基盤研究(C)「メディア哲学の構築」 研究分担者
- 直江清隆 科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」 研究分担者
- 荻原 理 2004～2005 年度 基盤 (B)「Well-being (福祉・いい暮らし・幸福) 概念の再検討とその実践的適用」 研究分担者

- 荻原 理 2004～2005 年度 若手 (B)「古代ギリシアにおける理性・合理性の概念——近現代の概念との対比に留意して」 研究代表者
- 荻原 理 2005～2008 年度 基盤(A)「西欧中世における言語哲学の展開と諸学における意義」 研究分担者
- 荻原 理 2006～2008 年度 基盤 (A)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」 研究分担者
- 荻原 理 2007～2008 年度 基盤 (C)「エピクロス派・ストア派の勧める生の内実の研究」 研究代表者
- 荻原 理 2007～2008 年度 基盤 (B)「ギリシャ政治哲学の総括的研究」 研究分担者
- 荻原 理 2008 年度 基盤 (B)「古代ギリシア正義論の欧文総合研究—プラトン『国家』とその伝統一」 研究分担者
- 荻原 理 2009～2011 年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」 研究分担者
- 原 塑 2009～2011 年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」 研究分担者

## (2) その他

- 直江 清隆 2005～2007 年度 日本学術振興会人文社会科学振興プロジェクト「資源配分メカニズムと公正」 研究分担者
- 直江 清隆 2007 年度 21 世紀 COE「医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点」(リーダー 今井潤) 拠点メンバー
- 直江 清隆 GCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」(リーダー 井上邦雄) 拠点担当者
- 原 塑 玉川大学グローバル COE プログラム、平成 21 年度～「社会における心の創成」(リーダー 坂上雅道)、研究協力者。
- 原 塑 独立行政法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター、平成 18 年度～21 年度「文理横断的教科書を活用した神経科学リテラシーの向上」、研究協力者。

## V 教員による社会貢献 (2005～2009 年度)

- 野家 啓一 科学研究費補助金審査部会人文学系委員会専門委員 (2003～2005 年度)
- 野家 啓一 国際高等研究所学術参与 (2003～2005 年度)

- 野家 啓一 学術会議会員候補者選考委員会専門委員（2004～2005年）
- 野家 啓一 国立療養所西多賀病院倫理委員会委員（2001年～現在）
- 野家 啓一 東北薬科大学倫理委員会委員（2003年～現在）
- 野家 啓一 河北新報紙面審議会委員（2004～2007年）
- 野家 啓一 日本学術会議第20期、21期会員（2005年～現在）
- 野家 啓一 日本学術会議哲学委員会委員長（2005年～現在）
- 野家 啓一 日本学術会議東北地区会議代表幹事（2005年～現在）
- 野家 啓一 宮城県図書館協議会委員（2005年～現在）
- 野家 啓一 裁判官指名諮問委員会仙台地域委員会委員（2006年～現在）
- 野家 啓一 アインシュタイン・ラブ展実行委員会委員（2005年）
- 野家 啓一 新潟大学人文社会・教育科学系外部評価委員（2006年）
- 野家 啓一 新潟大学人文社会・教育科学系懇話会委員（2007年～現在）
- 野家 啓一 メンタルヘルスケア協会スペシャリスト養成講座講師、2003年12月
- 野家 啓一 東北大学先端研究セミナー2004 講演「科学技術とリスク社会」、2004年3月
- 野家 啓一 東北大学百周年記念第5回サテライトセミナー（郡山）講演「科学技術とどうつき合うか—科学の成り立ちと社会的責任」、福島県立安積高校、2005年12月
- 野家 啓一 理学研究科大学院GP＜科学基礎論＞講演「歴史の中の科学と科学者」、2006年4月
- 野家 啓一 工学研究科特別講義「生命倫理」講師、2007年6月
- 野家 啓一 工学研究科特別講義「生命倫理」講師、2008年7月
- 野家 啓一 記念講演「科学と哲学のあいだ」、仙台一高＜壺高祭＞、2008年8月30日
- 野家 啓一 第3回「科学と社会」意見交換・交流会講師、NPO法人 natural science、川内萩ホール、2009年6月6日
- 野家 啓一 大学図書館職員長期研修講師、筑波大学メディアセンター、2009年7月9日
- 野家 啓一 川内萩ホールクラシックコレクション Vol.1「デュオ・リサイタル」プレトーク、2009年7月17日
- 野家 啓一 工学研究科特別講義「生命倫理」講師、2009年7月22日
- 座小田 豊 東北大学出版会 総務担当理事（1999年から現在に至る）

座小田 豊 東北大学教育研究振興財団 事業委員会委員 (2004年から現在に至る)  
座小田 豊 有備館講座第8期 第5回講師「神と人間の同一性と差異について」  
2009年9月19日

直江 清隆 「臨床研究の倫理—被験者保護システムの展望」 (日本学術振興会  
人文・社会科学振興プロジェクト研究事業「医療システムと倫理」および 東  
北大学 21世紀 COE プログラム 医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点)  
コメンテーター 2006年2月4日

直江 清隆 Master of Clinical Science (MCS) コース講師 (東北大学 21世紀 COE  
プログラム 医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点) 第12回「研究と臨  
床の倫理」2006年7月4日

直江清隆 「脳神経倫理学概論」東北大学 GCOE プログラム「脳神経科学を社会  
へ還流する教育研究拠点」東北大学星陵キャンパス 2008年2月19日

直江 清隆 Master of Clinical Science (MCS) コース講師 (東北大学 21世紀 COE  
プログラム 医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点) 第12回「研究と臨  
床の倫理」2008年6月26日

直江 清隆 東北大学大学院薬学研究科 Master of Clinical Science (MCS) コース講師  
第12回「研究と臨床の倫理」2009年6月18日

直江清隆 「もう一つの技術者倫理：教科書的記述から見えないこと」(社)日本  
技術士 東北支部 H21年度 第2回技術情報部会研修会 平成21年7月24  
日

荻原 理 東北大学文学部オープンキャンパス公開講義、「哲学者ソクラテス」 2009  
年7月31日

荻原 理 朝日カルチャーセンター講師、「ギリシャ政治哲学研究——プラトン『法  
律』篇をめぐって——」全6回のうち2回を担当(加藤信朗、土橋茂樹とと  
もに) 2009年8月8日、22日

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2005～2009年度)

野家 啓一 日本哲学会会長 (2003～2007年)

野家 啓一 日本哲学会委員

野家 啓一 日本科学哲学会理事、評議員、編集委員

野家 啓一 科学基礎論学会理事、評議員、編集委員

野家 啓一 日本現象学会委員

野家 啓一 日本ホワイトヘッド・プロセス学会理事

野家 啓一 東北哲学会委員、編集委員  
野家 啓一 Husserl Studies, Editorial Board  
野家 啓一 総合人間学会 理事  
座小田 豊 東北哲学会 委員、編集委員 (1999年～2007年) 会長 (2008年～)  
座小田 豊 日本哲学会 委員 (1999年～現在)、65回大会実行委員長 (2006年)、  
編集委員・編集委員長 (2007年～)  
座小田 豊 日本ヘーゲル学会 論文審査委員 (2007年～)  
直江 清隆 日本科学哲学会編集委員 (2006年～現在)  
直江 清隆 東北哲学会委員 (2006年～現在)  
直江 清隆 日本現象学社会科学会委員 (2008年～現在)  
直江 清隆 日本哲学会編集委員 (2009年～現在)  
荻原 理 東北哲学会委員 (2003年～現在)  
荻原 理 ギリシャ哲学セミナー運営委員 (2009年9月～現在)

## **Ⅶ 教員の教育活動 (2009年度)**

### **(1) 学内授業担当**

#### **1 大学院授業担当**

教授 野家 啓一  
哲学研究演習Ⅰ (全教員で共同担当)  
哲学研究演習Ⅱ (全教員で共同担当)  
科学哲学研究演習Ⅰ  
科学哲学研究演習Ⅱ  
哲学課題研究  
教授 座小田 豊  
哲学研究演習Ⅰ (全教員で共同担当)  
哲学研究演習Ⅱ (全教員で共同担当)  
近現代哲学研究演習Ⅰ  
近現代哲学研究演習Ⅱ  
哲学課題研究  
哲学課題研究  
准教授 直江 清隆  
哲学研究演習Ⅰ (全教員で共同担当)  
哲学研究演習Ⅱ (全教員で共同担当)

哲学特論 I

生命環境倫理学研究演習 2 学期

近現代哲学研究演習 4 単位

東北大学大学院生命科学研究科 生命科学特論 2 回分担当

東北大学大学院薬学研究科 応用医療薬学特論 1 回分担当

哲学課題研究

准教授 荻原 理

哲学研究演習 I (全教員で共同担当)

哲学研究演習 II (全教員で共同担当)

哲学研究演習 (哲学・倫理学専攻の全教員で、前期・後期)

古代中世哲学研究演習 I (アリストテレス『自然学』、前期・後期)

哲学特論 (プラトン『法律』篇、後期)

哲学課題研究

准教授 原 壘

哲学研究演習 I (全教員で共同担当)

哲学特論 I

哲学特論 II

哲学課題研究

## 2 学部授業担当

教授 野家 啓一

現代哲学概論 3-4 セメ

哲学思想演習 5-6 セメ

教授 座小田 豊

哲学思想概論 (近代哲学の生成と展開) 3-4 セメ

哲学演習 5-6 セメ

准教授 直江 清隆

哲学思想演習 5-6 セメ

生命環境倫理学各論 5 セメ

生命環境倫理学演習 6 セメ

東北大学薬学部 病院薬学概論 2 1 回分担当

准教授 荻原 理

哲学思想概論 (古代哲学史) 3-4 セメ

哲学思想各論 6セメ

哲学思想演習 5-6セメ

准教授 原 塑

哲学思想各論

哲学思想演習

### 3 共通科目・全学科目授業担当

教授 野家 啓一

歴史のなかの東北大学（全学教育科目）1,3セメ、1回担当

教授 座小田 豊

英語原書講読 2セメ

准教授 直江 清隆

科学と情報（全学教育科目） 1セメ

英語原書講読入門 2セメ

人文社会科学総合（研究と実践の倫理） 2回 担当

准教授 荻原 理

ギリシア語／ラテン語 3-4セメ

英語原書講読入門 2セメ

### （2）他大学への出講（2005～2009年度）

教授 野家 啓一

放送大学客員教授(2002年～2006年度)

教授 座小田 豊

ケルン大学客員研究員（文部科学省「海外先進教育研究プログラム」による  
海外出張）、2005年3月28日～9月21日

NHK学園、「人間学」、2008年7月

准教授 直江 清隆

宮城学院女子大学非常勤講師 2006～2009年度

准教授 原 塑

玉川大学脳科学研究所特別研究員 2009年～

日本女子大学大学院、「心理学特別研究Ⅰ講義、認知神経科学Ⅱ」、2009年度

東京大学教養学部後期課程、「ドイツ思想テキスト分析Ⅰ」、2009年度

